

定期
特集

安部まりあさん「一問一答」

Q1 ヨーロッパに滞在されていた約5年間、どのような活動をされていましたか？

まずオーストリアのウィーン国立音楽大学で2年間学び修了し、その後拠点をドイツに移し今年3月までベルリン芸術大学で学んでいました。

留学当初は、言葉の壁、生活の基盤が整うまで一苦労でした。平日は語学学校に通い、練習して大学でレッスンを受け、夜は演奏会に通い詰める。そしてコンクールに挑戦する。そのループ生活です。

その後徐々にですが、人脈が広がり、ソロの演奏会や伴奏の機会などいただけるようになってきました。

誰も知らない土地で、ゼロからなにかを初めて築いていく大変さや身をもって経験しましたが、その一方で、新しい出会い、様々な国の友人の価値観だったり、物の考え方を知る重要で貴重な時間だと思っています。

Q2 帰国後は長崎に拠点を置いて活動されるそうですが、その理由を差支えなければ教えてください。

私は東京で就職するか、はたまた長崎に帰ってくるか非常に悩みました。高校から東京に進学しているため、演奏の機会は東京がほとんどのため、。

しかし、東京に進学していた時からいずれは長崎に帰ってきたいという思いは強かったです。人は皆親切だし、地元の友人もいますし、なにより食べ物美味しい。そして、村嶋さんはじめOMURA室内合奏団のご活躍を拝見し、地元でなにか演奏の機会や指導の機会に携わりたく強く思うようになりました。そして大村は空港がすぐ近くにあるため、東京までの移動が簡単にできる。そこも大きいです。留学していたおかげで、まったくもって移動することに苦を感じなくなりました。そのため、東京で演奏の機会がある時にはすぐに飛行機で行けると考えています。

Q4 2011年にOMURA室内合奏団と共演して頂いていますが、その時の印象や思い出などあればお聞かせください。

当時は地元で演奏する事が数年ぶりだったため、お話をいただいた時、とっても嬉しくてわくわくした気持ちを今でも昨日のこのように思い出します。

Q5 今回の公演の意気込みをお聞かせください。

留学後、初めての長崎県での演奏の機会をととても嬉しく思います。ヨーロッパで学んだ成果を皆様にお伝えできれば幸いです。

Q6 最後に本通信をご覧の皆様へメッセージをお願いします。

パトローネージュ通信をご覧の皆様、記事を読んでくださりありがとうございます。まだまだ駆け出しの演奏家ですが、精いっぱい今の自分の演奏をできるよう日々精進いたします。

会場でお会いできますこと、心より楽しみにしております。



Q3 多忙な日々の中、息抜きはどのようになさっていますか？

音楽家は日々演奏会に向けて練習することがお仕事みたいなものですが、ひとりでピアノに対峙して、ひとりで考え自己解決する時間が他の職業に比べて非常に長いと思います。そのため、毎日1度は外に出て散歩をしたり、学校の友人と料理を作ってご飯をしたり、演奏会に足を運んだり外の空気を自分に取り込むようにしています。



安部まりあ (MARIA ABE)



1988年長崎県大村市出身。上野学園大学演奏家コース及び専攻科卒業。全額免除特待生として在学し、卒業時に特別表彰を受ける。成績優秀者として、桃華楽堂(皇室内)にて御前演奏を果たす。平成25年度文化庁新進芸術家海外研修員としてウィーン国立音楽大学(MdW: Postgraduater Lehrgang)に留学し修了。現在ベルリン芸術大学(UdK)に在籍中。

2010年第8回東京音楽コンクールピアノ部門第1位及び聴衆賞。2008年第54回マリア・カナルス国際コンクール審査員満場一致のメダル受賞。2009年第78回日本音楽コンクール入選 他多数受賞。

東京音楽コンクール優勝を皮切りに、日本シヨパン協会例会、日本音楽コンクール入賞者シリーズ、東京文化会館主催モーニングコンサート、新進演奏家育成プロジェクト・新進芸術家海外研修員コンサート、NHK-FM名曲リサイタル、戸塚さくらプラザホールこけら落とし記念演奏等、海外ではブルージャ音楽祭、ウィーン楽友協会、ウィーンコンツェルトハウスにて演奏。国内外にて演奏活動を行っている。

これまでに、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団、OMURA室内合奏団 等、日本を代表するオーケストラ及び指揮者と共演を重ねている。これまでに、横山幸雄、田部京子、ミハエル・クリスト、宮本玲奈の各氏に師事。現在マルクス・グロー氏のもと更なる研鑽を積む。(2016年11月現在)

● 5月19日(金)・20日(土) 長崎市民会館 文化ホール・シーハットおおむら さくらホール

少し遅い春を感じられるようになった今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

いよいよ定期演奏会まで一か月を切りました!そこで、それぞれの曲の聴き所を少しだけ紹介させて頂きたいと思ひます。

まずはバッハ。前回、前々回の定期演奏会でもバッハのオルガン作品を松原勝也氏が弦楽合奏版に編曲したものを演奏しましたが、今回は『トッカータとフーガ BWV538』を取り上げます。オルガンは音の持続が可能で、この曲でもたくさんの音が重なり合い、重厚な響きを聴くことができます。その音の持続によるハーモニーの重なりを弦楽器で演奏するととても深く柔らかな響きになります。会場に広がる響きをご来場頂いた皆様と共有出来る事を楽しみにしています。

続いてモーツァルト。ゲストにピアニストの安部まりあさんをお迎えし『ピアノ協奏曲第19番』を演奏します。

安部まりあさんとは6年前の定期演奏会で共演させて頂きました。世界でも活躍されるまりあさんはテクニックの秀逸さはもちろん、音色がとても豊かで多彩なピアニストです。当時、ピアノとはこんなに色々な音がでるのか!と驚かされましたが、6年経った今、まりあさんのピアノがどのような進化を遂げているのか、共演するのがとても楽しみです。

最後にベートーヴェン。彼が満を持して作曲した『交響曲第一番』は、室内楽シリーズでも取り上げた初期の弦楽四重奏曲や、有名なヴァイオリンソナタ「春」と同時期の作品です。この時期のベートーヴェンの作品には明るさと優美さが残る爽やかな雰囲気が感じられます。躍動する交響曲第一番を身構えることなくお聴きください!



まつおか ちか
松浦知佳 (ヴァイオリン)

Information

クラシック講座のお知らせ

日時 2017年5月9日(火) 18:30~
場所 長崎市民会館 中央公民館 2階 第3研修室
受講料 無料
講師 種口敬明 (ファゴット)
詳しくは事務局へお問い合わせください。

茶話会のお知らせ

受付はありませんので
終演後、直接会場まで
お越しくださいませ♪

日時 2017年5月20日(土) 演奏会終演後
場所 大村市中央公民館 花しょうぶ
参加費 ワンコイン

参加団員

川口千穂 (ヴァイオリン)、田辺清士 (チェロ)、永留結花 (フルート)
池田祐希 (ファゴット)、種口敬明 (ファゴット)

芸術監督だより

おらがまちのオーケストラ

14年前、シーハットおおむら館長に就任した折、掲げた抱負の一つが、大村にないもの、つまりオーケストラの設立でした。「人口9万余の地方都市に、そんなものが必要か?」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、人生の大半を音楽に携わってきた私としては、音楽の素晴らしさをもっと多くの人たち、殊に、子供たちに知って欲しいとの願いから、財源もないままに立ち上げたのでした。そして、文化の根源が異なるとはいえ、ヨーロッパの各地にあるような、町中の人に愛されるオーケストラになれば、とも思いました。

おかげ様で、ご支援くださる方々も増え、長崎県内はもとより、県外にも活動の場が広がってきました。しかし、なぜかコンサート会場を満席にすることが出来ません。

現在、パトロン・ジュ倶楽部の法人会員様が66組、個人会員様が175名いらっしゃいます。もし、会員全員の方々にご来場いただいても500席のさくらホールは半分しか埋まらなくて、あとの半分は一般の方々にご来場いただかなくてはなりません。もっとも皆様にも愛されるオーケストラになることが、我々の使命でもあります。大村だけでなく長崎県内の方々から「おらがまちのオーケストラ」と誇りを持って言われるようになりたいものですし、定期演奏会が満席に出来るようになりたいものです。ある方から、「おらがまち」というのは大村にふさわしくない、とのご指摘を受けましたが、親しみを込めて、あえて使わせていただきました。今後とも暖かいご支援をいただくと共に、ぜひ、コンサートを聴いていただけますことを、心より願っております。

むらしま すみこ
村嶋 寿深子

私とOMURA室内合奏団

vol.14



「OMURA室内合奏団」の一員として、初めてさくらホールの舞台上で演奏したのは2006年のことです。地元長崎に合奏団ができたことを教えてくださり、合奏団との橋渡しをしてくださったのが、大学の一つ上の先輩であるヴァイオリンの長嶋さんです。室内楽やオーケストラの研鑽をもっと積みたいと思っていた私にとって、合奏団と出会えた2006年は、大きなターニングポイントとなりました。それから2年後、長崎に生活の拠点を戻してからは、アウトリーチコンサート等にも参加させていただき、徐々に活動の幅も広がっていきました。時には悩むこともあります

が、生活の中心に音楽があるということ、とても有り難く幸せなことです。

私が音楽の道を志した理由・・・それはとても単純です。みんなと演奏することが好きだったから。10歳の私にアンサンブルの楽しみを教えてくれた曲、それは誰もが聴いたことのあるパッヘルベルのカノンです。優しいお姉さんたちと発表会で一緒に演奏した大切な思い出の曲です。こんな素敵な仲間との出会いだったり、旧友との再会であったり、いつも音楽が人との掛け橋になってくれます。今年度も、定期演奏会やスクールコンサート等々、多くの方々と音楽を通してお会いすることができます。周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、一つ一つ大切に演奏していきたいと思ひます。少しずつでも成長できるよう日々精進して参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



おた さき
太田さあり (ヴァイオリン)

♪ 音楽と私

小学6年のときの声変わりが、私を音楽から遠ざけました。そんな私が音楽と再会したのは、それから60年も経ったある日「蝶々夫人の街・ながさき」との出会いでした。その会長をお引き受けした直後、面識もなかった村嶋寿深子シーハットおおむら館長をお訪ねし、全くの素人の私に心のかもったアドバイスを頂きました。直後上京した中学のクラス会で、二宮和子さんの「なにか長崎でやっているらしいわね」という問から、彼女と地元演奏家共演が始まりました。最初の演奏会に「主人が俺も行くっていうのよ」と、N響クラリネット首席奏者の浜中浩一氏も参加して華やかな幕開けとなりました。帰京前の小中学校のスクールコンサートも恒例行事でした。浜中浩一氏が「館野泉とデュオをやらせろよ」と言って、彼が心から楽しみにしていた長崎のデュオは、開催前に持病が再発して実現しませんでした。

た。プログラムの変更に快く応じて頂いた館野泉氏と、昨年二宮さんがその役を果たしています。平成23年からこれまでの短い期間に、音楽は多くの異次元の人たちと出会う楽しみをくれました。数少ない文化活動を築こうとするOMURA室内合奏団の挑戦に期待しています。



末光 進

(ベンチャーズファーム代表
蝶々夫人の街・ながさき会長)

Mi Chiamo

ミ・キアーモ

3つの質問で
メンバーを知ろう!

※ミ・キアーモとは、イタリア語で「私の名前は、〇〇〇」の意。

- ① 自己紹介を自由にどうぞ!
- ② ひそかなマイブーム
- ③ 最後に一言



ヴァイオリン
まつもと
松本 さくら

- ① 長崎で生まれ、数年は平戸に住んでいました。その後滑石へ。地元は素敵なオーケストラがあって本当に嬉しいです!! 美味しいごはんも暖かいベッドがあれば幸せになれます。
- ② いも焼酎のお湯割り。ふくらはずの筋肉を鍛えること。
- ③ 少しずつ自分のペースではありますが、成長していけるように頑張ります。いつも私たちを応援し支えてくださる皆さんありがとうございます!!!

- ① 福岡生まれ福岡育ち。祖父は対馬出身です。
小学生で、マーチングの演奏で楽器の楽しさに目覚めました。
当時はトランペット! 小柄なので楽器が歩いている様だと言われました。
- ② レモン酢。健康、美肌、ダイエット、、、
いも効く! はず
- ③ 色々な事が世界中で起きる毎日。
音楽の力で世界が1つになる日を信じています。



オーボエ
きりたに みきこ
桐谷 美貴子

ご支援ありがとうございます (4月25日 現在) 法人会員数 66件 (-1件) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。
個人会員数 175人 (+1人) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお問い合わせ下さい。

編集
後記

ゴールデンウィーク、どこか遊びにいけるかな?もうすぐ定期演奏会です。是非聴きにきてください。気分もリフレッシュできるかも?♪ (ちほ)

最近pricotto(プリコット)というリコーダー・ファゴット・ピアノの新しいグループを結成しました!これから活動展開していくのが楽しみです!(△▽△) (いけっち)

5月に入ったらイベントがたくさん!クラシック講座、母の日コンサート、定期演奏会...みなさまのお越しをお待ちしております♪ (えりな)